本吉地域市政懇談会

復興から創生へ
－みんなが主役のまちづくり－

2018年11月28日
気仙沼市

人口及び世帯数の変化

			平成23年 2月末 ※1 (A)	平成24年 2月末 ※2	平成29年 10月末 (B)	平成30年 10月末 (C)	震災前との比較 C－A	一年前との比較 C－B
気仙沼市全体		人口（人）	74,247	69,986	65,067	64,050	▲ 10,197	▲ 1,017
		【増減率】					【▲13.7%】	【▲1.6%】
		〔高齢化率〕	〔30.2%〕	〔30.4%〕	〔36.2%〕	〔36.9%〕		
		男（人）	35,950	33,879	31,660	31,127	▲ 4,823	▲ 533
		女（人）	38,297	36,107	33,407	32,923	▲ 5,374	▲ 484
		世帯数	26,601	25,555	26,432	26,478	▲ 123	46
本吉地域	小泉	人口（人）	1,809	1,639	1,454	1,430	▲ 379	▲ 24
		世帯数	568	537	540	538	▲ 30	▲ 2
	津谷	人口（人）	5,288	5,265	4,918	4,793	▲ 495	▲ 125
		世帯数	1,681	1,697	1,769	1,761	80	▲ 8
	大谷	人口（人）	4,040	3,732	3,677	3,612	▲ 428	▲ 65
		世帯数	1,260	1,223	1,302	1,300	40	▲ 2
計		人口（人）	11,137	10,636	10,049	9,835	▲ 1,302	▲ 214
		【増減率】					【▲11.7%】	【▲2.1%】
		〔高齢化率〕	〔29.7%〕	〔29.6%〕	〔34.7%〕	〔35.9%〕		
		世帯数	3,509	3,457	3,611	3,599	90	▲ 12

※1，※2：外国人登録者数を含まず（平成24年7月9日外国人登録法は廃止されました）

気仙沼市全体　外国人登録者数 ※1：人口 464　男 40　女 424　世帯数 402

※2：人口 264　男 37　女 227　世帯数 225

地区別の外国人登録者数データなし

1. 復興の現状と
今後の事業展開

2.市民が主役の
まちづくりに向けて

住宅環境－災害公営住宅整備事業等－

（1）災害公営住宅整備事業（平成30年10月末時点）

住宅名		整備戸数	入居確定・申込世帯数	入居済世帯数	退去世帯数	空き室戸数
大谷住宅	戸建	67戸	68世帯	68世帯	2世帯	1戸
	長屋	5戸	5世帯	5世帯	0世帯	0戸
山谷住宅	戸建	11戸	11世帯	11世帯	0世帯	0戸
	長屋	2戸	2世帯	2世帯	0世帯	0戸
津谷下町住宅	戸建	8戸	8世帯	8世帯	0世帯	0戸
	長屋	7戸	8世帯	8世帯	1世帯	0戸
津谷街住宅	戸建	12戸	12世帯	12世帯	0世帯	0戸
	長屋	4戸	4世帯	4世帯	0世帯	0戸
小泉住宅	戸建	16戸	16世帯	16世帯	0世帯	0戸
	長屋	21戸	23世帯	22世帯	3世帯	1戸

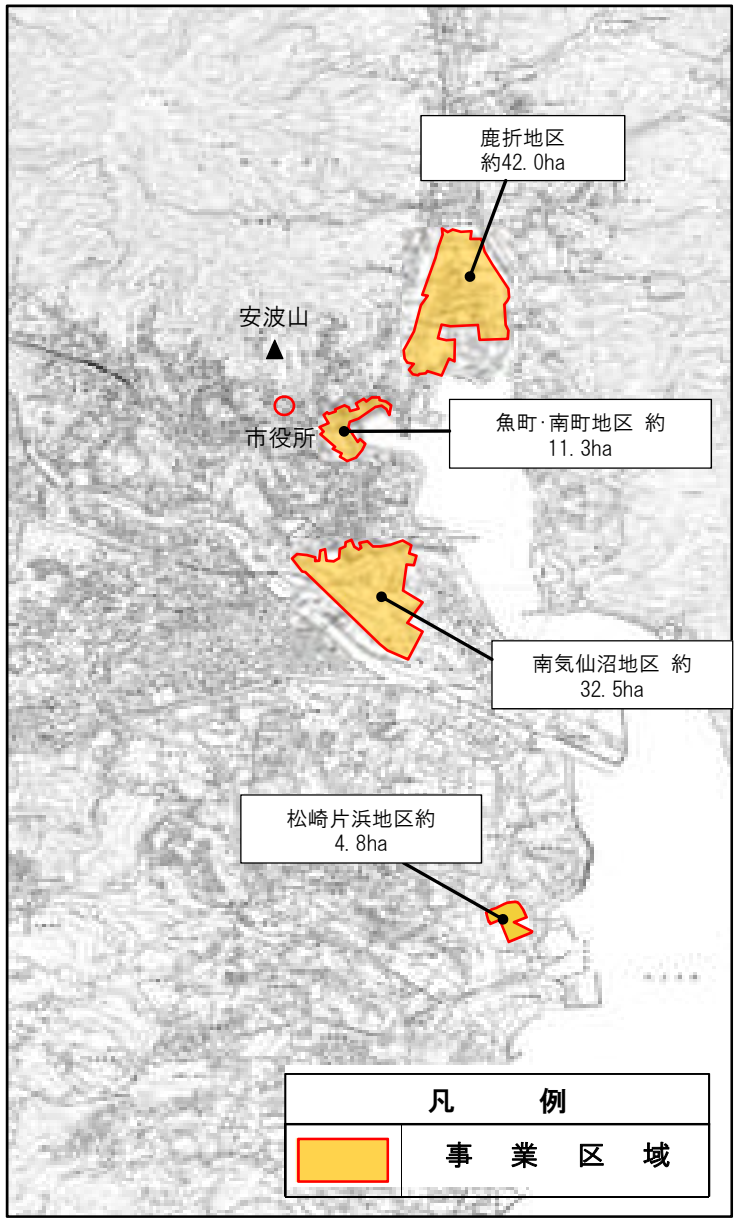
空室については，未だに住宅再建方法が決定していない被災者の申込みに対応する戸数を確保したうえで，なお空室が見込まれる住宅について，一般の方々を対象に年４回（6月･9月･12月･3月）実施している定期募集で入居者を募集します。

（2）復旧事業で整備した集会場・コミュニティセンター

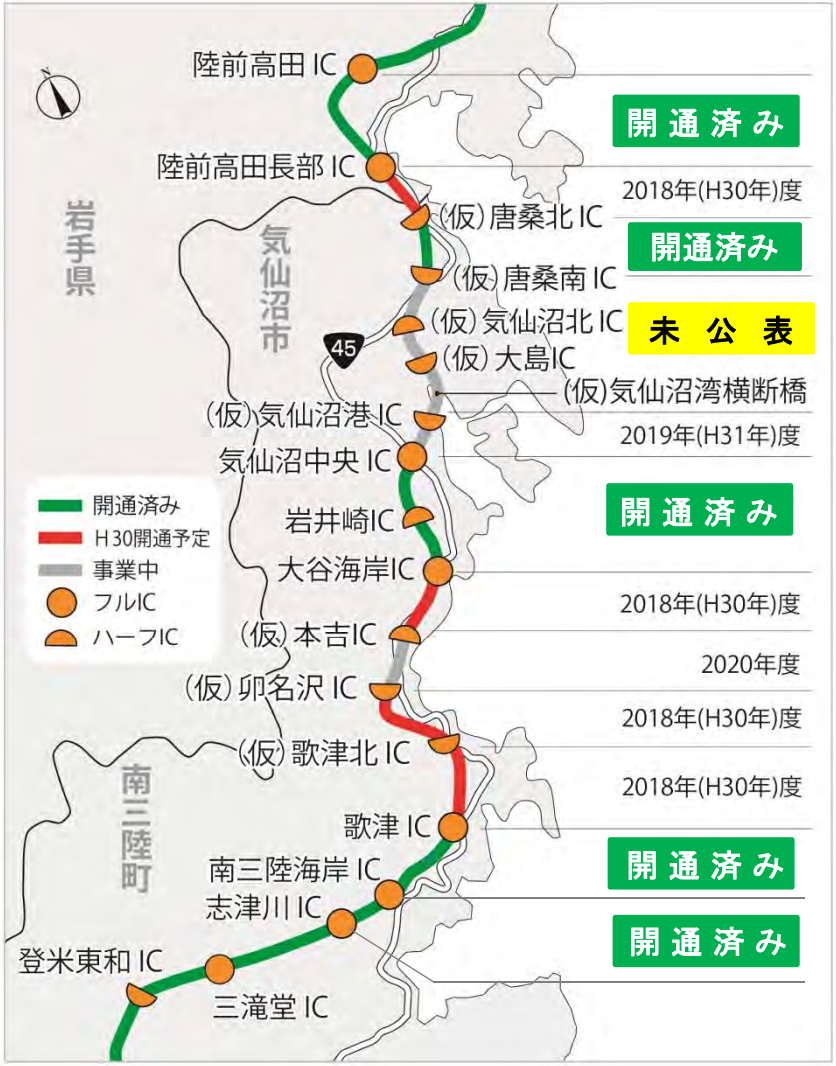
施設名	所在地	面積	構造・階数	完成時期
東日本大震災復興記念前浜マリンセンター	本吉町前浜 225-1	251㎡	木造平屋	平成25年11月
本吉幣掛ふれあい会館	本吉町幣掛192-3	101㎡	木造平屋	平成27年3月
本吉在区コミュニティセンター	本吉町卯名沢105-4	179㎡	木造平屋	平成27年3月
本吉中郷会館	本吉町洞沢138-28	205㎡	木造平屋	平成27年3月
本吉日門コミュニティセンター	本吉町山谷148-1	267㎡	木造平屋	平成28年3月
本吉高漁村センター	本吉町小金沢46	188㎡	木造平屋	平成28年8月
本吉大沢生活改善センター	本吉町大沢98-2	157㎡	木造平屋	平成28年9月
本吉大谷漁村センター	本吉町大谷374-3	296㎡	木造平屋	平成28年12月
本吉小泉町区振興会館	本吉町外尾152-51	204㎡	木造平屋	平成28年12月
本吉大谷西コミュニティセンター	本吉町長根186-90	178㎡	軽量鉄骨造平屋	平成29年5月

住宅環境 －土地区画整理事業－

地区名	整備面積	事業認可	施工期間
鹿折	約42. 0ha	H24年度	H24～31年度
南気仙沼	約32. 5ha	H24年度	H24～32年度
魚町・南町	約11. 3ha	H25年度	H25～32年度
松崎片浜	約4. 8ha	H30年度（予定）	H30～31年度（予定）



復興のリーディングプロジェクト －三陸沿岸道路－



区間距離	仙台港北ICから	2018年度	2019年度	2020年度
6.5km				
	128.3km			
3.5km		舗装工等 標識設置		
	124.8km			
3.0km				
	121.8km			
7.3km		土 工 構造物	土 工 構造物	未 定
	114.5km			
1.7km		土 工 構造物	舗装工等 標識設置	
	112.8km			
7.1km				
	105.7km			
4.0km		舗装工等 標識設置		
	101.7km			
2.0km		土 工 構造物	土 工 構造物	舗装工等 標識設置
	99.7km			
6.0km		舗装工等 標識設置		
	93.7km			
4.0km		舗装工等 標識設置		
	89.7km			
4.2km				
	85.5km			
3.0km				

※■ 土工…切り土・盛り土などの工事，構造物…橋・トンネルなどの工事

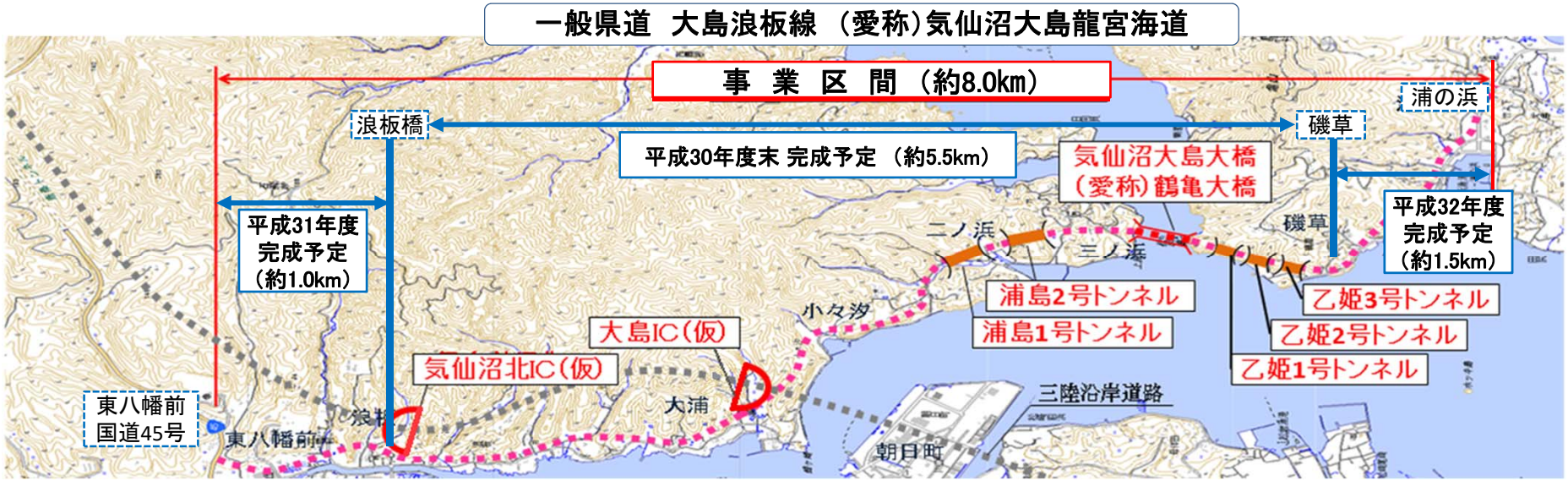
復興のリーディングプロジェクト －三陸道気仙沼湾横断橋－

- **橋の全長：L=1,344m（斜張橋部分：L=680m）**

  ⇒斜張橋では東北地方最長になる見込み

平成26年 6月29日	**着工式開催**
平成29年 3月	**高架橋部上部工工事着手**
平成29年 7月	**橋梁部上部工工事着手**

復興のリーディングプロジェクト －大島架橋－



平成29年3月　橋桁架設完了

平成30年度末	**完成予定**	**浪板橋 ～【気仙沼大島大橋】～ 磯草**			**約5.5km**
平成31年度	完成予定	東八幡前 国道45号	～	浪板橋	約1.0km
平成32年度	完成予定	磯草	～	浦の浜	約1.5km
					約8.0km

主な着工中または今後着工を予定する市の復旧・復興事業

施設名	概要	完成予定年度
1.新魚市場	密閉型低温売場を有した高度衛生管理対応型魚市場。 ●構造・階数　C,D棟：プレキャストPC造　2階建て E棟:プレキャストPC造　３階建て ●延床面積　C,D棟:17330.51㎡ E棟:10143.77㎡ ●水揚げ対象船　C,D棟:まぐろ延縄船・大目流し網船 E棟：施網船・さんま棒受け網船 ●クッキングスタジオの整備 CD棟2階海側に魚食普及の推進を図るため クッキングスタジオを整備。 面積：185㎡ 講師用調理台：１台 生徒用調理台：12台	平成30年度
2.復興祈念公園	東日本大震災による犠牲者に対する追悼と鎮魂の場であるとともに，防災への想いを新たにする場，地域の再興を実感しつつ未来永劫の安寧を祈る場として，復興祈念公園を整備。 ●場所　「陣山」地内外 ●面積　約2.3ha ●整備内容　復興祈念公園施設検討委員会において検討中 （モニュメント，震災犠牲者の銘板，寄附者の銘板，駐車場，休憩施設，トイレ，待避所等を整備予定）	平成32年度

主な着工中または今後着工を予定する市の復旧・復興事業

施設名	概要	完成予定年度
３ 気仙沼市まち・ひと・しごと交流プラザ	東日本大震災により被災した「気仙沼市観光物産センター（エースポート）」及び「勤労青少年ホーム」については，合築による再建を進め，施設名称を「気仙沼市まち・ひと・しごと交流プラザ」とし，平成31年2月開設を目標に整備を進めている。 当該施設は従前の２つの施設機能である観光・地場産業の振興や勤労青少年の健全な育成と福祉の増進に加え，対話・共創の場としての「まち大学構想」推進の拠点として活用していくものである。 ●構造・階数　鉄骨・鉄筋コンクリート造　3階建て ●敷地面積　2,025.76㎡ ●延床面積　2,403.38㎡ ●施設構成 ＜主な諸室＞ １階:観光情報コーナー，貸事務室，貸スタジオ（録音室），チャレンジショップ，ワークスペース１・２，交流サロン３，管理室，駐車場 ２階:貸スタジオ，キッズコーナー，２階ラウンジ，軽運動室，交流サロン１・２，ポートデッキ ３階:音楽室，談話スペース，展望ラウンジ，和室，研修室１・２，展望デッキ ※交流サロン1・2・3，ワークスペース1・2は「□ship」として使用	平成30年度

主な着工中または今後着工を予定する市の復旧・復興事業

<table>
<tr><th>施設名</th><th>概要</th><th>完成予定年度</th></tr>
<tr><td>4.震災遺構・震災伝承館</td><td>東日本大震災の記憶と教訓を地域と世代を超えて人々に伝えるとともに，防災・減災教育の充実や市内外の人々の多様な交流の促進を図る拠点として「震災遺構」及び「震災伝承館」を整備。
●場所　波路上瀬向９番地１　●敷地面積　25,083.35㎡
●延床面積11,119.83㎡
<table>
<tr><td colspan="2">東日本大震災遺構：9,824.83㎡</td><td colspan="2">東日本大震災伝承館：1,295.00㎡</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>区分</td><td>諸室名称</td></tr>
<tr><td>気仙沼向洋高校旧校舎等</td><td>北校舎，南校舎，総合実習棟，生徒会館，屋内運動場</td><td>震災伝承施設</td><td>映像シアター，展示室Ａ・Ｂ，講話室，展示コーナー</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>研修・交流施設</td><td>研修室Ａ・Ｂ，図書コーナー，体験交流ホールＡ・Ｂ，屋外広場</td></tr>
</table></td><td>平成30年度</td></tr>
<tr><td>5.南気仙沼復興市民広場</td><td>公園・広場の機能を集約し，多目的な利用を図り，市民の憩いの場，スポーツや運動の場として整備。
●全体面積　約5.2ha
●整備内容　多目的グラウンド，多目的広場，駐車場，トイレ，等</td><td>平成32年度</td></tr>
<tr><td>6.防災公園</td><td>平常時における日常的な公園利用の他，津波襲来時に避難が遅れた人の一時避難地として，避難築山を含む防災公園を整備。
（１）南気仙沼地区（全体面積　約2.0ha）
●整備内容　避難築山，広場，駐車場，トイレ，四阿等
（２）松崎尾崎地区（全体面積　約2.9ha）
●整備内容　避難築山，広場，駐車場，トイレ，四阿等</td><td>平成32年度</td></tr>
</table>

主な着工中または今後着工を予定する復旧・復興事業
7 大谷海岸　道の駅「大谷海岸」

【概要】
大谷海岸は風光明媚な砂浜が広がり，道の駅，地場特産品直売施設などをはじめとした市内でも有数の観光拠点となっていた。
しかし，東日本大震災により発生した大津波により，壊滅的な被害に遭った。
被災後は災害復旧事業により，直売施設のみ仮営業を行っている状況である。
本事業は，大谷海水浴場と道の駅を核とし，新設される海岸防潮堤などの計画に合わせて背後地を有効活用することにより，大谷海岸地区の賑わいと生業の再生を図るものである。

今後のスケジュール

平成30年度	道の駅「新・大谷海岸」検討委員会において，基本計画及び詳細設計を決定
平成31年度	管理運営受託者の決定　整備着工
平成32年度	工事完了⇒リニューアルオープン

1. 復興の現状と
今後の事業展開

2.市民が主役の
まちづくりに向けて

第２次 総合計画

将来像

世界とつながる 豊かなローカル

仕組み

対話・共創・協働による
「市民が主役のまちづくり」

イメージ

課題を「自分ごと」として捉え、
・チャレンジする
・チャレンジを応援する

協働のまちづくり(例)

市民参加 ⇔ 行政参加

市の計画をみんなで考える

【気仙沼市第2次総合計画】
市民ワークショップ

地域の役割を考え行動する

【階上まちづくり協議会】
中越地震震災遺構視察

参加者が起点となった実践

「みちくさプロジェクト」

「防災フェスタ」

震災遺構・伝承館での語り部活動

まちづくり協議会への支援

市では，震災からの復興や地域の活性化に向けて地域住民が主体的に組織し活動するまちづくり協議会に対して支援を行うとともに，まちづくりの担い手の育成を行っています。

復興まちづくり協議会運営費補助金

（平成25年度～）

まちづくり協議会の運営に必要な経費の一部を補助します。

■対象団体の要件

震災からの復興に向けたまちづくりに関する協議や活動を主たる目的として組織され，自治会その他地域団体と連携した団体であることなど。

■補助金額

地域住民等の世帯数及び事業所数に応じ5万から100万円まで

■補助対象経費

・会議資料，広報誌，パンフレット等の作成に要する費用
・まちづくり協議会構成員の意向把握に関する費用
・まちづくり計画の作成に関する費用等

■平成28年度実績　９協議会
■平成29年度実績　８協議会
■平成30年度実績　４協議会
（平成30年10月1日現在）

地域活性化支援員の設置

（平成29年度～）

地域活性化支援員をまちづくり協議会に配置します。

市が委嘱し配置した地域活性化支援員は、まちづくり協議会の事務局員として事務を行いながら，地域の調査・点検や課題の整理，課題解決に向けた取り組みを行います。

■対象団体の要件

気仙沼（2区域），鹿折，松岩，新月，階上，大島，面瀬，唐桑，本吉の各地区を対象として，まちづくり活動をしている組織で，自治会その他地域団体と連携した団体であることなど。

■配置人数

まちづくり協議会毎に各１名

■平成29年度実績　３協議会
■平成30年度実績　５協議会
（平成30年10月1日現在）

拠点の確保

公民館のまちづくりセンター化の検討

↓

検討経過等は次ページを参照

公民館のまちづくりセンター化の検討

【背景】
　東日本大震災後，市内各地域において，復旧・復興に関する市民活動が活発化し，まちづくりに関わる団体が設立されるようになった中で，生涯学習施設である公民館が，地域にとってより身近で様々な活動に利用されることが求められています。

第２次気仙沼市総合計画（抜粋）
　基本目標Ⅰ－１【対話・共創・協働】「市民が主役のまちづくりの推進」
　　③公民館の多機能化・まちづくりセンター化の検討

【検討の経過】
　7月13日　市職員（地域づくり推進課・教育委員会生涯学習課等）による，一関市への先進地視察
　8月23日　各地区自治会連絡協議会・まちづくり協議会等を対象に視察報告会を開催
【一関市における市民センター化の概要】
　①市民センターとは

地域の生涯学習の拠点としての機能（従来の公民館機能） ＋ **地域づくりの拠点としての機能（地域の特性を活かした地域づくり）**

　②公民館のエリアを単位とした地域で，自治会等の様々な団体で構成された「地域協働体」が市民センターの指定管理を受けるとともに，地域づくり事業を実施
　③公民館から市民センターへの円滑な移行
　　(公民館時と同数の職員配置，指定管理開始後1年間は公民館職員の配置，本庁及び支所へ地域担当職員の配置など)

⇒ これから，地域の皆さんと話し合いながら，気仙沼市に合った形のまちづくりセンターを検討していきます

人を中心としたまちづくり－人材育成－

コミュニティ

○アクティブコミュニティ塾

40代以上の方々を対象に，地域における自らの行動計画を作成し地域で活躍する人材を育む連続セミナー＆ワークショップを開催。

■**実績**　第Ⅰ期（平成28年度）卒業者数:13名
　　第Ⅱ期（平成29年度）卒業者数:12名
　　第Ⅲ期（平成30年度）受講者数:25名

■講師　東北学院大学教授等

女　性

○アクティブ・ウーマンズ・カレッジ

10代～40代の女性を対象に，前向きな行動意欲を持った女性の育成を目的とする連続セミナー＆ワークショップを開催。

■**実績**　第Ⅰ期（平成28年度）卒業者数:13名
　　第Ⅱ期（平成29年度）卒業者数:14名
　　第Ⅲ期（平成30年度）受講者数:27名

■講師　明治大学教授等

産業人材

○気仙沼経営人材育成塾

有限責任監査法人トーマツの協力を得て，数字に強い経営者の養成を目指し開講。

■**実績**　Ⅰ期　平成29年11月～翌年3月　11人
　　Ⅱ期　平成30年12月～翌年5月予定

高校生

○気仙沼の高校生マイプロジェクトアワード

高校生のまちづくりへの参加意識の醸成と，卒業後，積極的に地域で活躍する人材の育成を目的とする連続セミナー。

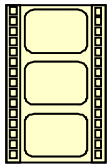
■**実績**　第Ⅰ期（平成29年度）修了者数:7名
　　第Ⅱ期（平成30年度）受講者数:14名

若　者

○ぬま大学

10代～30代の若者を対象に，地域に対する当事者意識の醸成と企画力の向上を図る連続セミナー。

■**実績**　第Ⅰ期（平成27年度）修了者数:13名
　　第Ⅱ期（平成28年度）修了者数:13名
　　第Ⅲ期（平成29年度）修了者数:10名
　　第Ⅳ期（平成30年度）受講者数:10名



考えてみましょう
「自分の地域の課題は何だろう？」

課題を「自分ごと」として捉え、
地域のみんなと共有し、

・チャレンジしてみよう

自分でチャレンジできない時は、

・人のチャレンジを応援しよう

市民一人ひとりが気仙沼のまちづくり・「わくわく」づくりの主役（担い手）です。

ご協力をお願いします。

－復興「ありがとう」ホストタウン－

◇インドネシア共和国からの支援

平成23年6月にユドヨノ大統領が気仙沼市を訪問し、復興資金として200万ドルの寄付をしていただきました。
地震の被害により使用できなくなった気仙沼図書館の建設費の一部として活用させていただき，平成30年3月31日に開館しました。館内の児童図書エリアの名称を「ユドヨノ友好こども館」と名付け、インドネシアからの震災復興支援の象徴としています。

ユドヨノ友好こども館の前で（H30.8.4）

◇復興「ありがとう」ホストタウンに登録

気仙沼市は平成30年7月27日，これらの復興支援への感謝と交流を目的に
インドネシア共和国を相手国として復興「ありがとう」ホストタウンに登録しました。

◇インドネシア共和国との絆を深めよう！！

2020東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に，インドネシアの皆さんに復興支援への感謝の気持ちを表し，様々な形で交流を深め，日本へやってくるインドネシア選手団を市民の皆さんで応援しましょう

◇復興「ありがとう」ホストタウンってなに？

「復興五輪」と称される東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に，震災時に支援してくれた海外の国・地域を相手とし，被災時の支援に感謝を示しつつ，当地に招き交流を行ったり、復興のプロセスを見て頂いたりする取り組みとして政府が創設したものです。

宮城オルレ －気仙沼・唐桑コースの開設－

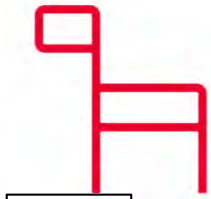
MIYAGI OLLE 宮城オルレ MIYAGI OLLE TRAIL

■宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」の開設

宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」が，平成30年10月7日（日）にオープンしました。

唐桑半島の美しいリアス海岸や森の道を巡り，海とともに生きてきた人々の暮らしを感じる10kmのコースです。

コースには，100を超えるリボンや矢印，見どころを示すカンセといったオルレ特有の標識が設置され，誰でも自由に歩くことができます。



カンセ

矢印

リボン

■オルレとは？

韓国・済州島から始まったトレッキングコースの名称です。もともとは済州の言葉で「通りから家に通じる狭い路地」という意味です。

山，海岸線などの自然や民家の脇の古い路地など地域の文化を感じながら，自分なりのペースでゆっくりと歩き楽しむ徒歩観光です。

宮城オルレは，九州に次いで日本で2番目に認定され，気仙沼・唐桑コースは宮城オルレの1番目のコースです。

気仙沼の観光がおもしろい –ちょいのぞき気仙沼–

3. 各地区・地域の課題

本日の「懇談テーマ」

担当から内容を説明した後、皆さまからご意見をいただきます。

①生活環境について　P25
②教育について　P26
③インフラについて　P27

地区の課題に対する市の考え方・方針

担当からの説明を省略させていただきます。記載内容をご覧ください。

①生活環境　P28
②コミュニティ　P30
③教育　P35
④インフラ　P36
⑤産業　P40

本吉地域「地区の課題」

懇談テーマ①生活環境について

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて **市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
高齢者の移動手段の確保 ・高齢者のひとり暮らしや高齢者のみの世帯が多くなり、また免許証を返還したりし、通院や買い物の手段をなくす人が出てきている。 ・高齢者の免許返納者が増え続けることが予想され、移動手段が課題。 ・移動手段が確保されなければ、免許の返納が遅れ、高齢者の交通事故が心配。	山田地域移動支援サービス体制整備検討委員会を立ち上げ検討中	・住民バスの運行 ・移動交通の検討・実施 ・市街地の巡回バスのエリアを本吉地域にも広めてほしい。 ・本吉地域への乗り合いタクシーの運行拡大 ・こどもや高齢者の交通弱者の足の確保	・市内に点在する高台団地や交通空白地域への交通アクセスは課題と捉えているが、路線バス等の運行維持に係る行政負担が年々増加していることや運転手や車両の数が限られる現状では市内全てを公共交通でカバーすることは困難。 ・市内循環バスについては、運行に係る経費が約2,200万円／年に対し、運賃収入は約660万円／年と赤字運行でルートの拡大は、運行経費の増加につながることや、路線バスやタクシー等の既存の交通事業者にも影響を与える可能性がある。 ・路線バスや乗合タクシーについても同様に赤字運行で今後いかに維持できるかが課題。 ・他自治体では地域住民が主体となり交通検討会を立ち上げ、乗合タクシーの運行を開始している例もあり、本市においても、住民主体の運行や、その他の手段等を総合的に検討し、地域と共に考えたい。【震災復興・企画課】

本吉地域「地区の課題」

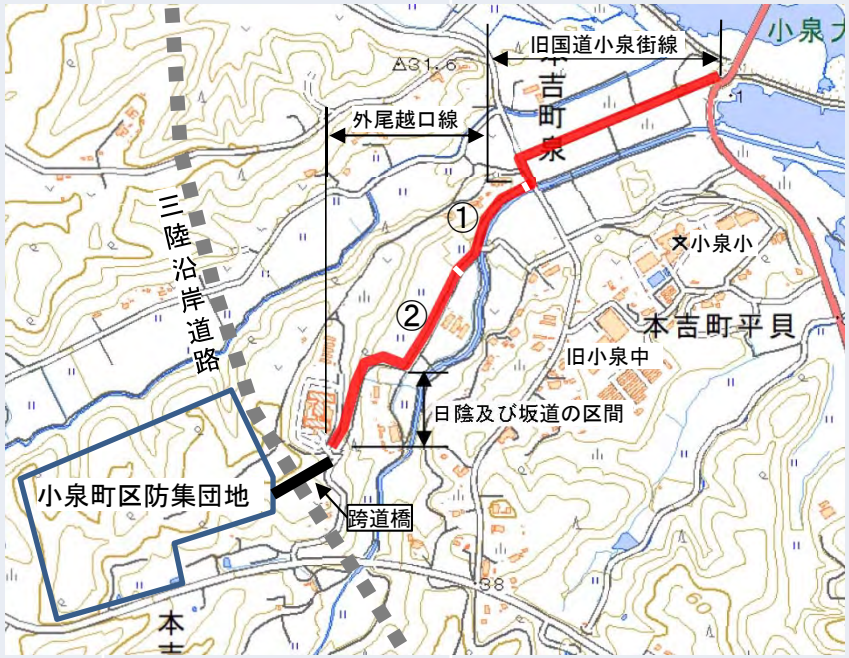
懇談テーマ②教育について

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて **市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
中学校の統廃合問題 ・大谷中と階上の統合計画は、生徒数の現状だけでなく地域コミュニティの拠点にもなる学校であることから地域づくりの観点からも検討してほしい。 ・大谷幼、小、中学校は昔から連携した教育が行われており、この培われた伝統を壊さず、生かすよう小中一貫校の方向もあるのではないか。 ・大谷中学校の体育館の改修の案が示されたが、中学校の体育は防災拠点、避難所にもなりうる施設で新築が望ましい。 ・大谷中学校と階上中学校の統合計画の具体的な内容が不明で不安。	統合の具体的な情報が不足している。	・今後のまちづくりを見据え、統廃合計画の見直しを含め、統合の在り方の検討 ・大谷中学校の体育館新築 ・大谷中学校の整備と今後の方針について、地域住民に十分理解されるような説明	・人口減少、少子高齢化が進む今日であるからこそ、学校が関わる地域を広げ、保護者や住民の間に新たな絆を作り、一体となって学校を支える体制を構築し、新たな地域づくりの推進につなげる必要がある。 ・大谷中と階上中の学校統合の計画をお示ししていますが、子どもにとっても、地域にとっても望ましい義務教育環境はどうあるべきか、ご意見を伺いながら進めることが重要。なお、小中一貫教育においては、同一学年の一定程度の児童生徒数の確保や、小・中両方の教員免許を所持している教員確保等も課題。 ・体育館の新築については、義務教育環境整備計画との整合性の観点から難しい状況。一方で生徒の安全確保、避難所としての機能向上は緊急を要すことから、現在、体育館の耐震補強工事とトイレ新築工事を実施中。来年2月下旬完了予定。 【教育総務課、学校教育課】

本吉地域「地区の課題」

懇談テーマ③インフラについて

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて **市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
小泉町区防集アクセス道路の整備 小泉町区防災集団移転団地から国道45号線へのアクセス道路条件が良くない。特に冬の朝は歩道のない通学路を含む日陰の下り坂道が多く歩行者とも凍結で危険。	津谷方面に向かう道は、グリーンロードから金子線が開通する予定。グリーンロード通学路部分については現在歩道整備を計画中とのこと。	小泉町区防災集団移転団地から小泉町跡被災地を通り国道45号まで通る道の拡張整備	・小泉町区防集団地から国道45号へ向かう外尾越口線(全長875m)のうち約630m区間については、二級河川外尾川改修事業によりL=180m【図示①】、社会資本整備総合交付金によりL=450m【図示②】を平成27年度までに、現況幅員2.3~3.5mを5mに拡幅改良工事完了済み。 ・旧国道小泉街線(全長808m)のうち外尾越口線から国道45号までの約390m区間は幅員7~8mあるが、現在、工事車両が通行していることから道路パトロール及び維持管理に努める。 ・外尾越口線の日陰及び坂道区間の冬期間における凍結対策ついては、委託により除雪作業を実施するほか、坂道には融雪剤を配置し安全確保に努める。 【土木課】



本吉地域から出された主な課題－市の考え方－

①生活環境（1/2）

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて**市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
(1)曲要（まがりょう）の箒松 昭和43年に町天然記念物に指定され、270年過ぎて病気になり手当の甲斐もなく無残な形になっている。	公園・モニュメント・新しい箒松など	今後の対応策	・曲要の箒松は、平成28年、枯死したため、やむなく文化財指定を解除。 ・松の処理方法や、残材活用、後継木の植栽などについては、専門家や地域の皆様と相談しながら検討。 【生涯学習課】
(2)新庁舎建設 庁舎建設に向けて議会内では調査特別委員会の設置、また有識者による新庁舎建設基本構想策定有識者会議が設置される。市内には、現在、学校統合（小泉中学校・馬籠小学校）など建設年度からしてまだ活用されるべき財産が利用されないままでいる。		分庁舎の一部として活用	・本年１１月１１日に第１回新庁舎建設基本構想策定有識者会議を開催し、新庁舎建設に向けて本格的な検討がスタートしたところ。 ・本吉地域における住民サービス等の業務は、総合支所庁舎において担っていることで、地域の皆様の利便さが確保出来ている。 ・旧小泉中学校、旧馬籠小学校は、地域に根ざした身近な公共施設として地域づくりにも大きく貢献してきた施設。今回、跡施設の有効活用に向け、地域の意向やニーズを踏まえながら事業提案の公募を実施。 【財政課】

本吉地域から出された主な課題－市の考え方－

①生活環境（2/2）

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて **市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
(3)海岸清掃のゴミ回収 宮城県のスマイルサポータービーチ担当として気仙沼本吉サーフィンクラブは年4回、小泉・登米沢・大沢漁港脇・大谷・お伊勢浜の海岸清掃をしている。回収したごみは、減免申請し、直接クリーンヒルセンターへ持ち込んでいる。ゴミの集荷が課題	各海岸で集めたゴミをサーフィンクラブ事務所に集め、燃えるゴミ・燃えないゴミ袋に分別。ゴミ袋に入らないもの、漁具・うき玉・タイヤなどは持ち込めないため、各浜にそれぞれ一か所に集めておく。平日の午前にクラブ事務局がクリーンヒルセンターへ持ち込む。	市と県が協議して回収	・ボランティア団体が回収・分別し、市の指定袋に入れたたビン、缶、燃やせるごみなどについては、市が収集を実施。ただし、収集方法ついては、今後検討。 ・漁具、うき玉、タイヤなど、市で処理できないごみについては、県と協議。 【本吉総合支所市民生活課】
(4)海の環境保全 大規模ソーラー、護岸工事等による泥水流出による海の環境悪化		定期的に市と工事会社を交えた工事の進捗状況の説明会の実施	・工事業者と調整し、工事の進捗状況を住民の皆さんにお知らせする方法を今後検討。 【産業再生戦略課、水産基盤整備課】

本吉地域から出された主な課題－市の考え方－

②コミュニティ（1/4）

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて**市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
(1)行政協力員の報酬 小泉西区での広報等の配布にかかる時間は、１回あたり10世帯で仕分けも含め約45分程度を要す。広報の配布は最低でも月２回、年間に換算すると約18時間で、現在の報酬は5000円で、宮城県の最低賃金で換算した場合、約14,400円。住宅密集地と点在地域との地域差を考慮した報酬体系での検討	行政協力員は地域の輪番制となっているため、会社員の方でも時間を都合し、やむを得ずやっている状態です。地域のためといえどもそこまで負担を強いることは、行政としては検討の余地があるのではないでしょうか。 今回の要望では、報酬増額としましたが、広報配布作業等の軽減策も含めて考慮願います。	住宅密集地、点在地区等の地域ごとの報酬の早期の検討	・行政委員・行政協力員を委嘱し実施している広報配布は、自治会をはじめ、地域の皆様の御協力が不可欠。 ・広報配布を担う行政協力員の報酬は、市町合併時の協定に基づき、担当１世帯当たり、年間単価を５００円として設定。 ・報酬単価については、エリアの広狭・高低、戸建て・集合住宅の別など、各地区における配布実態の違いはあるものの、それぞれが市域全般にわたって混在しており、住宅密集地・点在地としての明確な区別が困難であることから、金額に差異を設けない現在の基準を継続。 ・一方、復興期間終了後における広報発行回数の見直しや、市の情報発信の改善、抱き合わせチラシの集約・制限など、広報配布に係る負担軽減策を検討。 【総務課】

本吉地域から出された主な課題－市の考え方－

②コミュニティ（2/4）

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて**市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
(2)振興会長の職務と組織 行政委員が振興会長を兼務する地域が多く、また、新たな組織がつくられ充て職となることが見受けられ、会議が多く、多忙。引受者がいなくなると思われる。		地域の自治組織を整理し、同様な組織の統合、形骸化している組織や費用対効果の低い組織の廃止	・自治組織の整理・統合等については、関係団体の意向もあり、協働によるまちづくりを進めて行く中で検討。 【地域づくり推進課】

本吉地域から出された主な課題－市の考え方－

②コミュニティ（3/4）

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて **市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
(3)小泉小学校統廃合後の地域の活性化、振興会館の指定管理 近い将来、小泉小学校の廃校が計画されていますが、学校がなくなるとは地域の交流の場も失う事と直結し、小泉地区全体の活力を喪失させます。また、振興会館の指定管理方法、公民館の民営化の見直しも検討中との事ですが、地域の活性化を充分に考慮し進めていただきたい。		・小泉小学校統廃合後の小泉地区活性化の施策明示 ・振興会館の指定管理は現在の管理方法の維持。各振興会の財政的負担が増えないように考慮 ・公民館の民営化、並びに指定管理者制度への移行は、各地域へどのような影響が生じるのか、慎重な検討と地域への説明	下記のとおり

・統廃合後の地区の活性化施策については、地域の皆様と一緒に考えて行きたい。
・振興会館を含む市内全域の集会施設の管理方法の統一化については、各地区の自治会（振興会）連絡協議会の代表者と意見交換を行い、趣旨をご理解いただいた後、自治会代表者と意見交換を行うなど、取組みを進めている。
・統一案概要等については、次頁「市有集会施設の管理方法の統一について」参照。
【地域づくり推進課】

・公民館のまちづくりセンター化については、従来の公民館に地域づくりの拠点施設としての機能を加えるもので、本年７月に視察した一関市など、他の自治体の先進事例を参考にしながら、進め方も含め、地域の皆様と共に検討していく。【地域づくり推進課、生涯学習課】
・公民館への指定管理者制度導入については、地域事情に精通した住民の皆様が指定管理者となることで、より効果的な事業運営と地域の活性化が期待されるが、受け皿となる地域の理解と協力が不可欠であり、十分に協議を行いながら、準備の整った地域から制度を導入していく。【生涯学習課】

市有集会施設の管理方法の統一について

協議経過

○気仙沼，唐桑，小泉，津谷，大谷の各地区自治会（振興会）連絡協議会の代表者（会長等）と意見交換
　平成30年　8月23日　　統一案のたたき台（原案）について市から説明
　　9月21日　　統一案について意見交換（統一案の趣旨について了解をいただいた。）
○自治会代表者等への統一案の説明会の開催
　平成30年10月24日　　本吉地域　（統一案を説明し了解をいただいた。）
　　10月26日　　唐桑地域　（統一案を説明。施設の管理方法等について再度説明することとした。）
　　10月31日　　気仙沼地域（統一案を説明し了解をいただいた。）
　　11月　8日　　唐桑地域（2回目）（唐桑自治連で協議することとした。）

統一案の概要

○指定管理者（地元振興会等）による管理が基本（ただし，条例上は「管理できる」と規定し，市直営も可）
○施設の維持管理費用の負担区分は次のとおり

市負担

※ 施設の維持に要する費用
- 消防点検や火災保険料10万円以上の修繕など ➔ 市が直接支出
- 電気，水道，ガス料金の基本料金，浄化槽の保守点検料
  ➔ 指定管理料として自治会等へ支払

振興会負担

※ 施設の利用によって発生する費用
- 電気，水道，ガス料金の従量料金
- 浄化槽の汚泥清掃料，汲み取り料
- 消耗品（ﾄｲﾚｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰなど）
- 灯油等燃料費，10万円未満の修繕など
  ➔ 自治会費，利用料金等を充当

○営利団体等へ貸した場合の施設使用料（利用料）は指定管理者（地元振興会等）の収入
○試算の結果，個別の施設では増減があるが，本吉地域全体では地域振興会等（指定管理者）の負担は，これまでと同程度
○大きく負担増となる施設については，複数年かけて段階的に統一案による金額とするなど緩和措置を相談

本吉地域から出された主な課題－市の考え方－

②コミュニティ（4/4）

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて**市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
(4)小泉中学校の利用 廃校となった小泉中学校の再利用による地域の活性化	校庭の芝布化を協力団体とともに実施した。	・廃校利用を広く募集する。 ・利用しやすい環境をつくり、メリットを明確にして全国的に周知	・気仙沼青年会議所（JC）や地域の皆様の協力により校庭に植栽していただいた芝苗は順調に生育中で、来春から利用できる見込み。今後、芝刈り機等の管理備品を整え、JCの協力を得ながら適切に管理し、地域交流やスポーツの振興に活用。 ・小泉中の利活用については、地域の意向やニーズを踏まえ、今回、民間事業者等による事業提案の公募を実施。 ・小泉中を活用する事業提案が1件あり、地域の方を含めた審査委員会（11月29日開催）の審査を経て、優先交渉事業者を決定。その後、地域説明会等を開催しながら、より良い施設の利活用を目指す。 ・馬籠小については、今回応募がなかったものの、公募期間中に問い合わせ等があった事業者とのつながりを大切にしながら、今後も施設の有効な利活用に向け、地域とともに検討。 【教育総務課】

本吉地域から出された主な課題－市の考え方－

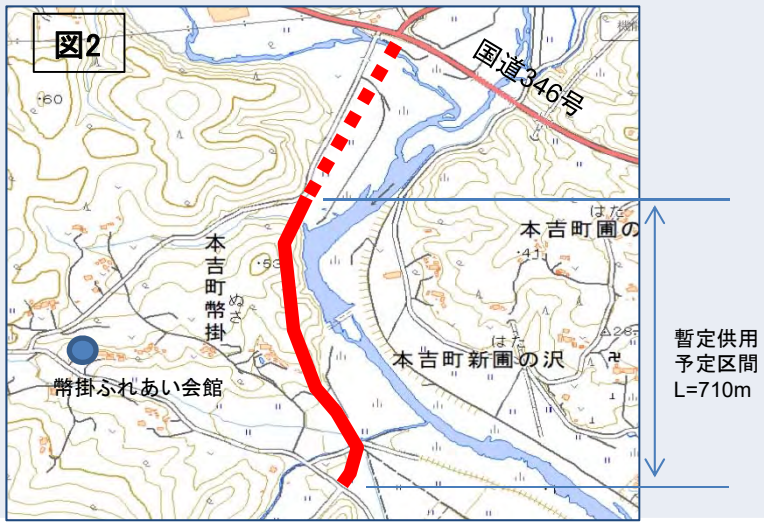
③教育

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて **市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
小中学校の廃校、校舎解体により、小中学校が保管してきた文化財（書、画、写真、文献、考古遺物等）が散逸する恐れがあります。それらの保全と教材としての活用を図り、教養、情操に裏打ちされた教育を目指すべき。	・種々の事情により住民が引き取った物件について、それらの意義、見方、価値等を当該校の教員、生徒に伝える機会を持ちたい。 ・学校が保管する史料の解読に取り組み成果の一部を専門家に紹介したこともあり、奉安殿内部の図面等、一般に知られていない情報を発信したい。	・文化財の保存、利活用には、専門的知見が必要であり、市教委の主導が不可欠。各校の現場に負担をかけることなく、物件の悉皆（しっかい）調査を市教委が直接実施 ・学校が保管する文化財の情報を市教委が専門的知見に基づき広く発信する仕組み作り ・本件を含め、文化財を学校教育に活用する方策の具体化	・小中学校の資料については、大学等の専門家の指導協力を得ながら調査を行っており、引き続き資料の把握と保全に努める。 ・また、学校資料を含め、地域の貴重な文化財を学ぶ機会の提供や、展示公開するなど活用策を検討する。 ・小中学校におけるふるさと学習等での資料活用を進めていく。 【生涯学習課、学校教育課】

本吉地域から出された主な課題－市の考え方－

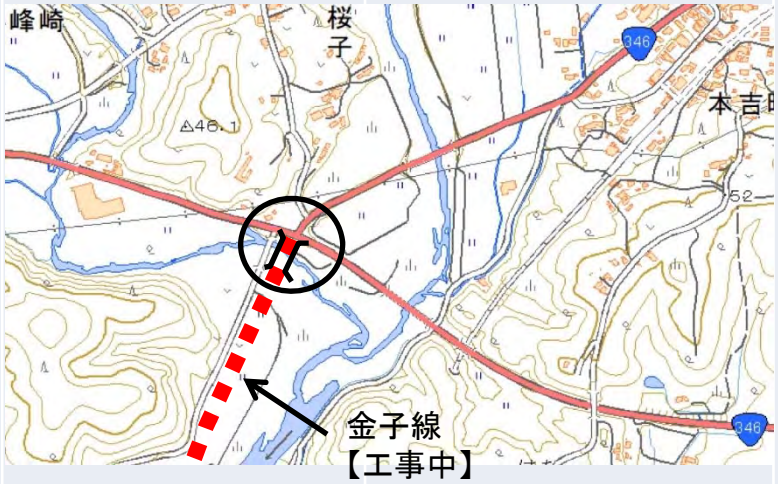
④インフラ（1/4）

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて **市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
(1)梨の木橋 小泉西区振興会の共同体としての日常活動の連絡路として重要。 (2)新金子線から国道346号 小泉山田線までの市道現金子線は非常に狭く、通行が危険。新金子線開通後は、小泉防災集団地区からの本吉病院、中学、高校通学等の移動路として利用頻度が高く、また、歩道の街路灯の設置により中学、高校生等の歩行者も含む、通行の安全性を高めることができる。	新金子線は、完成の状態になっており、前後の取り付け道路のみの工事となっていますが、R346側は仮道路工事も暫定開通。 通行の安全性は、現金子線より格段に安全性が向上。	梨の木橋、金子線（街路灯含む）の早期運用開始。暫定で可	・梨の木橋は、橋梁本体が平成30年8月に完成し、現在、橋梁への取り付け道路(津谷幣掛線)を整備中。完成は平成31年3月予定。（図1） ・金子線の改良計画は、延長1,174mで、うち710mが完成し、完成区間の暫定供用開始は本年11月29日。（図2） ・街路灯の整備については、地元振興会と現地を確認し設置場所を検討。【土木課】



本吉地域から出された主な課題－市の考え方－

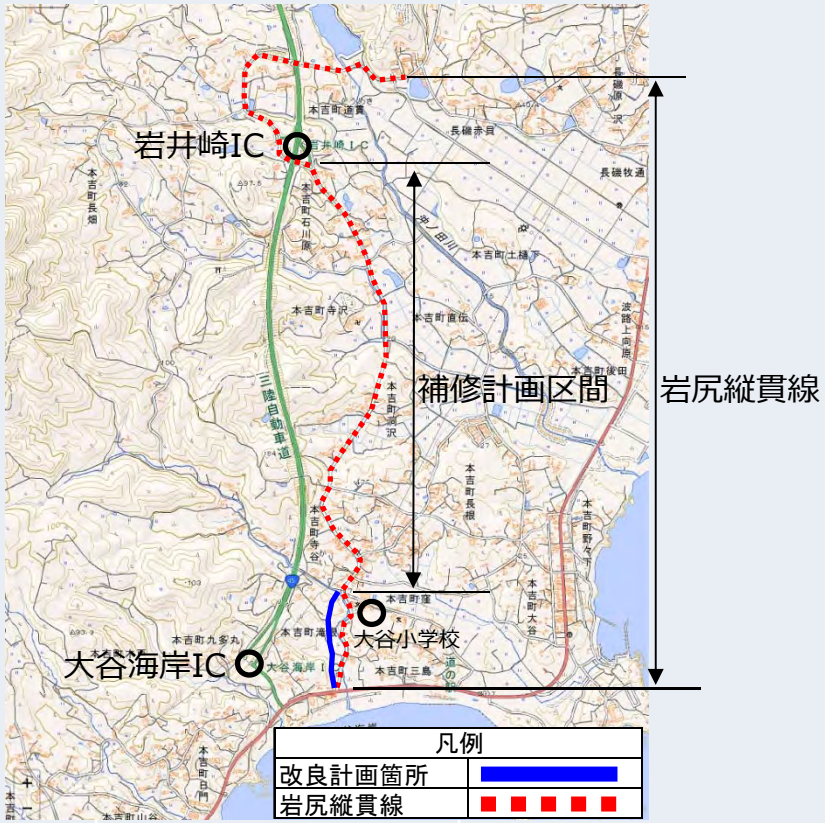
④インフラ（2/4）

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて **市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
(3)国道346号と本吉バイパスの交差点が低くなっているので、見通しが悪く、登米方面から津谷街に左折するとき、運転しづらい。		金子線の橋を建設中なので、その橋の開通に合わせて交差点を高くして、平らに改修	・金子線の橋は、先に計画され既に開通している国道346号の高さに合わせて計画し、工事中。 ・交差点については、道路管理者である宮城県と現地の状況を確認するとともに、安全対策に努める。 【土木課】
(4)三陸道延伸工事につき、大型車両の頻度の多い通行によって、市道の陥没、沈下、水道管の破裂。それらの部分修復で舗装がデコデコ等、傷みが激しい。		三陸道工事に伴い傷んだ市道も三陸道の一環工事として、国交省と調整して一体化修復を。	・三陸道の工事が直接起因する損傷の激しい箇所については、国が補修を実施しており、今後も損傷箇所の確認や対応について、国との連絡を密にし、調整する。 ・市においては、道路パトロール・維持補修による通行車両等の安全確保。 【三陸道・大島架橋・唐桑最短道整備促進課】

本吉地域から出された主な課題－市の考え方－

④インフラ（3/4）

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて **市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
(5)三陸道・岩井崎ICができ、農道の交通量増加と工事に伴う農道の損傷により通行が危険。	地域内の道路（市道・農道）等の安全対策について点検	・交通標識やガードレール等の安全対策 ・補修箇所や舗装工事の早期実施	・三陸沿岸道路岩井崎インターチェンジ開通による市道岩尻縦貫線(通称：基幹農道)の交通量増加や工事車両通行による舗装損傷等の対応については、道路パトロールにより道路状況を確認し、舗装補修や危険箇所へガードレールを設置する等、今後とも車両通行等の安全対策に努める。 ・なお、岩井崎ICから大谷小学校までの区間について、舗装補修工事を検討中。 ・岩尻縦貫線の国道45号から大谷小学校までの区間(図:青色)は新たに西側にルート変更し、平成30年3月より工事着手しており、完成は平成32年3月予定。(計画延長550m、車道幅員7.0m、片側歩道幅員2.5m) 【土木課】



本吉地域から出された主な課題－市の考え方－

④インフラ（4/4）

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて **市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
(6)被災した小泉町区の復旧計画	地元議員さんとの話し合い他	市と小泉住民との今後の計画についての話し合いの場をもちたい。	・企業誘致のための事業用地としての活用を含め、今後の活用策を幅広く検討中。 ・住民の皆様方との話し合いの場については、内容を精査したうえで対応することとし、現時点では未定。 【産業再生戦略課】

本吉地域から出された主な課題－市の考え方－

⑤産業（1/2）

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて **市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
(1)気仙沼市全体で雇用のミスマッチが生じている。具体的には水産加工業などの求人は多いが、若者は水産加工業だけでなく、多様な職種を求めている。多様な職場がないため、戻ってきたくても戻ってこられない現状がある。		・復興を加速させるうえからも、進出企業への税制優遇、用地提供などを行い企業誘致 ・被災宅地をまとめて企業誘致	・市単独での企業立地奨励金の交付のほか、国や県とともに、民間投資促進特区等による税制優遇、津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金等、各種支援制度を用意しており、本市に立地を検討する事業者に紹介している。 ・また、事業用地についても、防集事業の移転元地を集約し、事業用地として各事業者に紹介している。 【産業再生戦略課】
(2)農地の荒廃と遊休地化が進んでいる。有害鳥獣による農作物被害。	特に農山村の過疎化対策や振興対策の充実が必要	・現在の日本型直接支払制度（中山間地域・多面的機能）のさらなる充実 ・中山間地の農地整備事業や有害鳥獣の被害防止対策	・制度内容のさらなる充実については、国の政策に基づき、単価の嵩上げや事務の簡素化などを要望。 ・中山間地の農地整備事業については、地域からの要望を受け、国、県及び市の各種事業の説明を実施。 ・有害鳥獣の農作物被害対策については、現在、鳥獣被害対策実施隊と連携し有害鳥獣を捕獲、また、電気柵等の補助を実施中。その効果が現れており、今後も積極的に実施。 【農林課】

本吉地域から出された主な課題－市の考え方－

⑤産業（2/2）

現在の課題	地域の皆さまが取り組んでいる・取り組みたい内容	課題解決に向けて **市に求めるもの**	**市の考え方・方向性**
(3)安定した新鮮野菜の供給体制 　道の駅「大谷海岸」の整備が平成32年オープンを目指していると聞いているが、農作物の生産体制が心配。 　年間を通して安定した新鮮な野菜の供給には、生産者の育成と指導また集団的な営農体制が不可欠である。		生産者の育成と指導、集団的な営農体制	・現在、道の駅に農林水産物を納品している直売組合では、農林漁家の減少により商品の確保に苦労していることから、新たな生産者を確保するよう募集活動を実施。 ・また、新しい道の駅においては、本吉地域以外からも組合員を募集し、商品の種類・数量の充実に努める。 ・農作物の生産体制については、専業農家への生産拡大の推進と本市農家の９割を占める兼業農家へ直売事業を活用して農業を事業として継続・発展できる環境づくりを目指し、関係機関と連携しながら、営農指導や講習会を開催し、農作物栽培の普及活動を推進。 【農林課】

市道の整備方針について－市道整備の優先度及び道路整備計画－

担当課　土木課　連絡先　22-6600　内線572・575

現在、復旧・復興事業を優先していることから、新たな市道整備計画は、復旧・復興事業が完了する見込みである平成３２年度内に策定予定

◆道路整備計画策定スケジュール

年度	実施内容
平成30年度	・評価基準や整備優先度等の審査を行う会議体を設置 ・補助事業の採択可能性等，財源確保の見通しを盛り込んだ道路整備計画策定の方針案を定める ・自治会要望路線等を含め，現地調査を実施
平成31年度	・現地調査のとりまとめ ・路線毎の評価，整備水準，優先度の案を作成 ・地区毎の説明会を開催し，整備計画案を策定
平成32年度	・整備計画案を基に，地区毎の説明会，パブリックコメント等を実施 ・最終検討を行い，道路整備計画を策定

※ 策定にあたっては、公共施設等総合管理計画及び橋梁長寿命化修繕計画との整合性を図るとともに、各種施策や財源の見通し、財源確保等を考慮

インフラ －本吉地区市道等の災害復旧及び整備の状況－

担当部署：土木課
水産基盤整備課

◆市道の整備状況
整備路線数　13路線　L=7,057.8m
うち完了　3路線　L=　518.5m
工事中および予定　10路線　L=6,539.3m
◆漁集事業による集落道整備
整備路線数　6路線　L=1,236.0m
うち完了　1路線　L=　483.0m
工事中及び予定　5路線　L=　753.0m
◆東日本大震災により被災した市道の復旧
復旧路線数　160路線　L=32,950.9m
うち完了　138路線　L=27,517.4m
工事中及び予定　22路線　L=　5,433.5m

◆市道の整備状況

※箇所図は次頁参照

No.	箇所図番号（※）	路線名等	内容	延長(m)	幅員(m)	現在の状況	着工年月(予定)	完了年月(予定)
1	㉚	大沢狼の巣線	改良・舗装	900.0	5.0	用地・補償 一部工事完了（L=850m）	H28.1	H31.3
2	㉛	金子線	改良・舗装	1,174.0	9.5	工事中（464m） 一部工事完了（710.0m）	H27.10	H32.3
3	㉜	旧国道蔵内線	水路	55.0	-	工事完了	H28.10	H29.7
4	㉝	蕨野線	舗装	166.0	4.2	工事完了	H30.1	H30.5
5	㉞	牧通2号線	改良・舗装	2,960.0	9.5	用地・補償 工事中（47.0m） 一部工事完了（140.0m）	H31.4	H32.3
6	㉟	牧通線	改良・舗装				H31.4	H32.3
7	㊱	菖蒲沢線	改良・舗装				H31.4	H33.3
8	㊲	岩尻縦貫線	改良・舗装				H28.10	H33.3

No.	箇所図番号（※）	路線名等	内容	延長(m)	幅員(m)	現在の状況	着工年月(予定)	完了年月(予定)
9	㊳	岩尻縦貫線	改良・舗装	550.0	9.5	用地・補償 発注準備中	H30.9	H32.3
10	㊴	三島上通り線	改良・舗装	297.5	7.5	工事完了	H27.3	H29.3
11	㊵	前浜中央線・天ヶ沢才新岩ノ前線・天ヶ沢岩ノ前線	改良・舗装	947.9	5.0	一部完了(360.0m) 跨線橋架替発注準備中	H28.11	H32.3
12	㊶	石川原橋	橋梁補修	3.2	3.2	発注準備中	H31.11	H32.3
13	㊷	明戸橋	橋梁補修	4.2	2.0	測量設計中	H32.5	H33.3
計				7,057.8				

◆漁集事業の整備状況

※箇所図は次頁参照

No.	箇所図番号（※）	路線名等	内容	延長(m)	幅員(m)	現在の状況	着工年月(予定)	完了年月(予定)
1	㊸	蔵内地区1号集落道	新設	166.0	4.0	一部完了（L=48.7m） 防潮堤工事と調整中 （L=117.3）	H29.3	H33.3
2	㊹	大谷地区1号集落道	新設	117.0	5.0	設計完了	H31.2	H31.12
3	㊺	日門地区2号集落道	改良・舗装	483.0	4.0	完了	H29.2	H30.3
4	㊻	前浜地区1号集落道	改良・舗装	130.0	5.0	設計中	H31.7	H33.3
5	㊼	赤牛地区1号集落道	改良・舗装	176.0	4.0	工事中	H29.3	H31.3
6	㊽	赤牛地区2号集落道	改良・舗装	164.0	4.0	工事中	H29.3	H31.3
計				1,236.0				

津谷・小泉地区

◆災害復旧路線

No.	路線名	延長(m)	状況
①	蔵内上の山線	65.0	完了
②	二十一上の山線	889.9	一部完了(782.2m) H32年度予定
③	二十一浜左岸線	43.4	H32年度予定
④	津谷幣掛線	434.2	工事中
⑤	旧国道小泉街線	87.5	完了
⑥	小泉街裏北側線	320.1	H31年度予定
⑦	下宿山ノ後線	308.3	H31年度予定
⑧	小泉街旧診療所前線	174.9	H31年度予定
⑨	小泉外尾川1号線	29.6	H32年度予定
⑩	小泉郵便局前線	98.8	H32年度予定
⑪	赤崎臨海線	241.4	H32年度予定
⑫	赤崎臨海1号線	105.5	H31年度予定
⑬	仁田の沢線	366.0	工事中
⑭	新北明戸7号線	178.2	H32年度予定
⑮	新北明戸8号線	356.0	完了
⑯	新南明戸3号線	187.0	完了
⑰	小泉駅前大明神線	164.2	H31年度予定
⑱	下宿田中線	107.0	H31年度予定
⑲	平貝大明神線	329.0	H31年度予定
⑳	小泉駅大橋下向線	61.3	H32年度予定
㉑	外尾川左岸線	275.2	工事中
㉒	外尾川右岸線	274.8	工事中
㉓	小泉大浦脇線	92.0	工事中
㉔	蕨野中学校裏山線	9.0	完了
㉕	旧国道中島線	71.0	H31年度予定

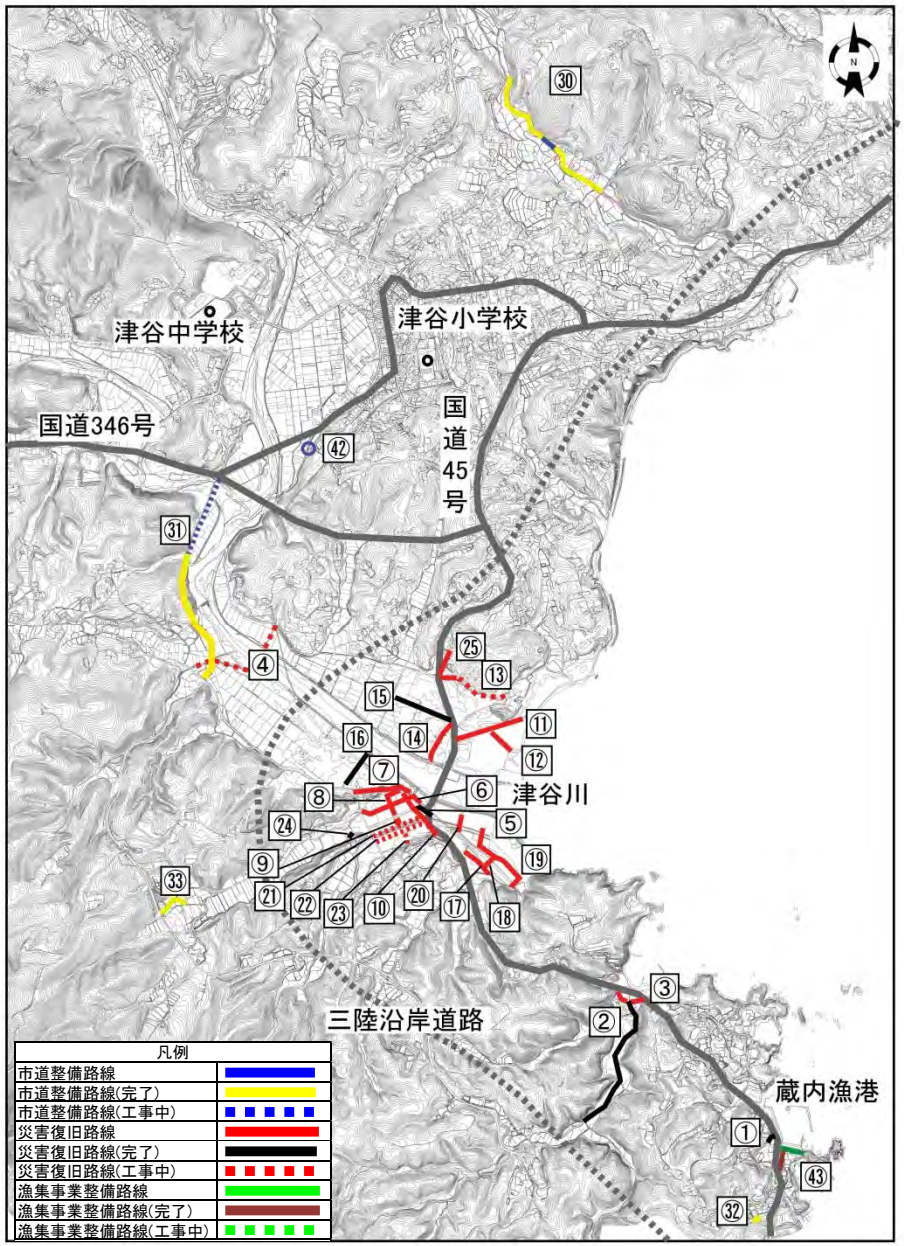
()内は一部完了延長

◆整備路線

㉚	大沢狼の巣線	900.0	用地・補償 一部完了(L=850m)
㉛	金子線	1,174.0	工事中(L=464m) 一部完了(L=850m)
㉜	旧国道蔵内線	55.0	完了
㉝	蕨野線	166.0	完了
㊷	明戸橋	4.2	測量設計中

◆集落道整備

㊸	蔵内地区1号集落道	166.0	一部完了(L=48.7m) 防潮堤工事と調整中 (L=117.3)



大谷地区

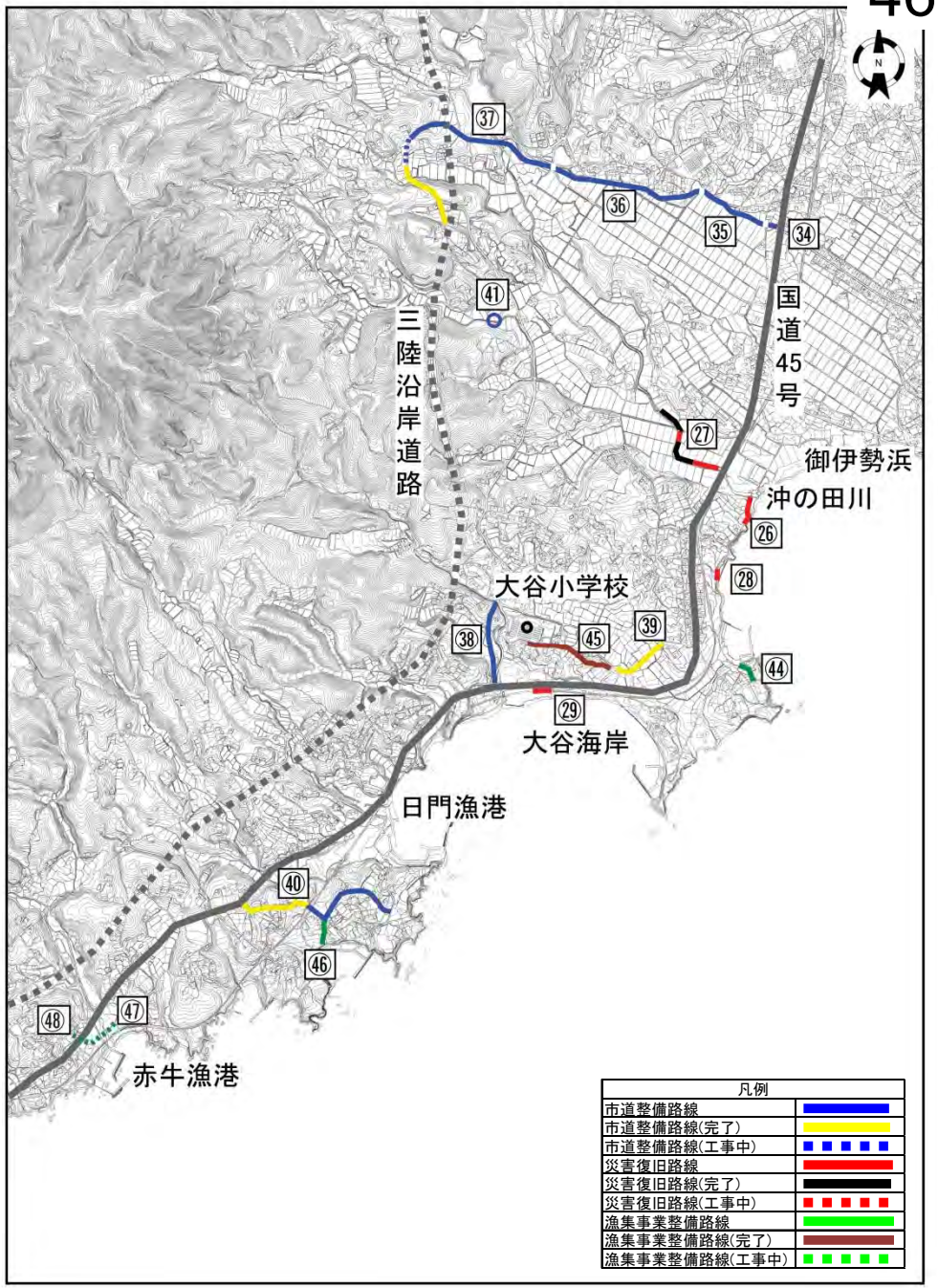
◆災害復旧路線

No.	路線名	延長(m)	状況
㉖	大谷沖ノ田線	122.1	H31年度予定
㉗	沖ノ田川直伝線	597.3	一部完了(478.3m) H32年度予定
㉘	大谷沖ノ田線	82.3	H31年度予定
㉙	大谷海岸西口線	67.0	H32年度予定

()内は一部完了延長

◆整備路線

㉞	牧通2号線	2,960.0	用地・補償 工事中(47.0m) 一部工事完了(140.0m)
㉟	牧通線		
㊱	菖蒲沢線		
㊲	岩尻縦貫線		
㊳	岩尻縦貫線	550.0	用地・補償 発注準備中
㊴	三島上通り線	297.5	完了
㊵	前浜中央線・ 天ヶ沢才新岩ノ前線・ 天ヶ沢岩ノ前線	947.9	一部完了(L=360m) 跨線橋架替発注準備中
㊶	石川原橋	3.2	発注準備中

◆集落道整備

㊹	大谷地区1号集落道	117.0	設計完了
㊺	日門地区2号集落道	483.0	完了
㊻	前浜地区1号集落道	130.0	設計中
㊼	赤牛地区1号集落道	176.0	工事中
㊽	赤牛地区2号集落道	164.0	工事中